

開 会 令和5年10月31日（火）午前10時

閉 会 令和5年10月31日（火）午前11時35分

令和5年度第2回金ヶ崎町子ども・子育て会議

会議録

金ヶ崎町子育て支援課

令和5年度第2回金ケ崎町子ども・子育て会議会議録

令和5年10月31日(火)午前10時金ケ崎町役場4階大会議室において、
金ケ崎町子ども・子育て会議を開催した。

1. 出席委員

会 長	吉田 泰治	副会長	渡辺 理恵
委 員	菊地 春香	委 員	渡邊つる代
委 員	高橋 修	委 員	千枝 徳三
委 員	鹿島 麻衣	委 員	扇 良明
委 員	照井 崇経		

2. 欠席委員

委 員	高橋 邦博	委 員	菊池 直美
委 員	高橋 和博	委 員	小野寺謙一
委 員	千葉 勝	委 員	佐藤 薫

3. 町出席者

高橋町長

【関係課】

教育委員会事務局 教育次長 千葉重徳、次長補佐 及川博、
主査 市橋美花、主事 菊地祥

【事務局】

子育て支援課 課長 稲葉郁子、課長補佐 浅利英克、副主幹 菊地淑子
係長 柴田志穂、主事 及川真人

4. 傍聴人 1人(報道機関1人)

5. 会 議

〔1. 開会〕

稲葉課長 令和5年度第2回子ども・子育て会議を始めさせていただきます。

本日は、高橋邦博委員、菊池直美委員、高橋和博委員、小野寺謙一委員、千葉勝委員、佐藤薫委員より欠席の報告をいただいております。

本会議は、金ケ崎町子ども子育て会議条例第6条第2項により委員の半数が出席しており、定足数に達しておりますので、本会議は成立しております。

それでは、吉田泰治会長から挨拶をいただきます。

〔2. 挨拶〕

吉田会長 皆さん、こんにちは。日頃より子ども及び子育ての事業に主体的なご参加をいただきましてありがとうございます。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日の会議の議題は、協議（1）の支援事業計画の策定よりは協議（2）のニーズ調査に関わる内容が主となっております。ニーズ調査は策定前の準備になると思いますが、私が説明を受けて感じたことは、ニーズ調査から準備ではなくて計画策定の一環であることです。この調査で子育てに関わる皆さんや保護者の気持ちがちゃんと繋げられるのか。中身を読むと、町で一生懸命子育てについて考えていることが伝わってきますが、それは理屈の世界でございまして、感情としてどうなのか。そもそもこういう調査されて負担に思うことがないのか、戸惑わないで調査にご協力いただけるような中身であるか。そのために、直接保護者の方と関わっている皆さんから、保護者の立場に立ってご意見いただければと思っております。よろしく願いいたします。

稲葉課長 ありがとうございます。続きまして、金ケ崎町長高橋寛寿より皆様にご挨拶申し上げます。

町長 大変ご苦勞様でございます。本日は令和5年度の第2回金ケ崎

町子ども・子育て会議ということで、ご案内を差し上げましたところ、本当にお忙しい中、皆さんにはお時間をいただきまして、お集まりいただき、大変ありがとうございます。

金ケ崎町の子ども・子育て支援事業計画は令和6年度で終了することから、令和7年度にスタートする第3期計画を来年度中には策定をしたいと考えているところでございます。そのために、アンケート調査を本年度からスタートしたいということで、本日はお集まりいただいているところでございます。

金ケ崎町の人口について、改めてお話をさせていただきたいと思います。平成19年と令和5年、大雑把に15年昔と比べますと、金ケ崎町の総人口は8%程の減少をいたしております。平成19年度は16,460人ではありましたが、令和5年の4月1日は15,129人となっており、8.1%の減少でございます。この8%というのは減少そのものが大変なことですが、岩手県内の市町村と比べますと、減り方は少ないと言われております。ただ、年齢別の内容を見てみますと、65歳以上の年齢の方々については、この15年間比べますと、合計16%程増加しております。一方、15歳から64歳、いわゆる生産年齢人口については、逆に14%程減っている。さらに14歳以下の年齢では22.5%程減少という大きな現象となっております。この状態が続くと町の人口が今度どうなるかというのは自ずと認識されるだろうと思っております。この子ども・子育て支援事業計画、5年間に1回の策定をお願いしておりますが、その過程でいろいろなご意見を伺って計画に反映させる大きな目的は、安心して子どもを産める、安心して子どもを育てられる環境をつくるので、やはり子どもをしっかりと育てていただきたい、この人口減少を放置することなく取り組んでいくことが大きな目標と思っております。

そのこともありまして、理屈だけではなくて本当に子育てしている方々が何を感じ、何を求める、何の改善が必要なのかということについて、このアンケートを含めて各委員の皆様から忌憚の

ないご意見をいただきながら、町としては子どもを産み育てる、良い環境にしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。このご時世でも合計特殊出生率、女性1人の方がどれだけ産むかという数字が2.95という町も日本の中にあるようでございます。しっかりとした目標を取り組んで、今の状況から改善を重ねていけば、きっと金ケ崎の人口も、年少人口が減る一方というところから脱却ができるのではないかと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

稲葉課長 町長は公務のためここで退席をさせていただきます。

(町長退席)

稲葉課長 続きまして「3. 協議」に入ります。この後の進行につきましては、会長に議長をお願いします。吉田会長、お願いします。

〔3. 報告〕

吉田会長 それではよろしく申し上げます。

本日の会議は次第にありますとおり、協議が2件ございます。関連のある内容ですので一括で続けてご説明をいただけるということです。協議「(1) 金ケ崎町子ども・子育て支援事業計画の次期計画策定について」、「(2) 金ケ崎町子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施について」、事務局の説明をお願いいたします。

事務局 (金ケ崎町子ども・子育て支援事業計画の次期計画策定について説明)

(金ケ崎町子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の実施について説明)

吉田会長 説明があったことにご質問・ご意見等あればお願いいたします。

高橋委員 今、アンケート調査の話がありましたが、非常にきめ細かい調査をするということですが、項目数が多いので気にする方は気にするのかなど、見た段階で最後きりが無い設問だと思う方もいる可能性があります。

前回の調査は同じように実施したということですが、前回の回収率は何パーセント程度ありましたか。今回、100%にはならないと思いますが、回収率の見通しをつけていると思います。金ヶ崎は回収率がこれくらいでいけば良いという目安があれば教えてください。

事務局（浅利補佐） 前回の回収率については、小学生以下と中学生以上と分けて調査を行いまして、第2期計画書の34ページにございまして、小学生以下の調査は、1,645票配布して、回収が1,355票、回収率が82.4%となっております。中学生以上の調査は、904票配布して、回収が666票、回収率は73.7%でした。

吉田会長 いかかでしょうか。

高橋委員 設問数の割には回答してくれたと思いますが、前回の回収率は割といい線ですか。今回もそのあたりは目指して行きますか。

事務局（浅利補佐） 今回に関しては、それを目標としていきたいと思っておりますが、調査対象が子どもまで増えたこともあり、その点で負担を感じる部分もあるのかなと思っております。できれば前回の回収率を目指していきたいと思っております。

高橋委員 回収方法について説明がありましたが、学校等にお願いして配布し、提出するということですか。

事務局（浅利補佐） その通りでございます。無記名となり、保護者の方々に学校を通じて配布し、期日までに学校を通じて回収いただきます。

吉田会長 私も気になり、事務局からの事前説明の際に質問させていただいたのですが、仮に小学校5年生、中学校2年生、高校2年生の3人兄弟をお持ちの保護者は、各学校から子どもを通じて保護者用と子ども用が配られるので、その保護者のところには計6部のアンケート調査が届くということでございます。

子ども用の調査は 小学5年生であっても授業時間を割いて回答することではなくて、家庭で書きます。保護者としては、6部きちんと回答されたことを確認して、それぞれの学校にお返しいただくことになるかと伺っています。私としては、そこで戸惑いが生じると

思ったので、「それぞれのお子さんについてお答えください」と、一文を説明に追加していただければとお話しました。

高橋委員 状況はわかりました。アールピーアイ栃木さんにお聞きしますが、様々な事例でこのような運用や方法は一般的でしょうか。

アールピーアイ栃木 国から出ている調査票に準じて作っていますので、このくらいのボリュームがあるのが一般的です。

高橋委員 回収方法等についても全国的にこのような方法ですか。

アールピーアイ栃木 回収率については、学校を通して実施されていますので、全国的に見ますとかなり高い回収率になっています。回収方法、回収の仕方によって随分違います。今回のような学校を通して回収するという方法はかなり高い回収率が期待されます。

吉田会長 調査の形式または方法について、ご意見等ありますか。

扇委員 調査用紙の配布や提出は学校を通すという話ですが、高校の場合は町内に限らず県内の様々な場所に通学されている方が多いと思います。その調査はどのようにされるのでしょうか。

事務局（浅利補佐） 資料1の11ページ、調査票の発送について、町内の幼稚園・保育園及び小中学校のご協力を得て行っていきます。町内の幼稚園・保育園及び小中学校に属さない子どもと保護者に関しては郵送等で行ってまいります。

渡邊委員 このアンケートは良いものだと思うのですが、保護者に100%の回答をしてもらうためにも、事前にもっとPRしたほうが良いと思います。「以前、町の子育て支援課が言っていたのは、このアンケートかな」と思えるくらい、突然このボリュームがあるものが届いたとき、こちらの思いがなかなか伝わりにくいと思うため、事前に何回もお話したほうが取り組みやすいと思いました。そして、形式はペーパーベースでも良いのですが、スマホでダウンロードという形式もあります。子どもが保護者と一緒に回答するのであれば、子どもに回答してもらって、スマホやパソコンがあればもっとスピーディーにできると思うのです。経費もかかると思いますが、いかがでしょうか。

事務局（浅利補佐） ありがとうございます。PRの件については、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。形式については、今のところ紙媒体として進めています。委託業者であるアールピーアイ栃木さんに参考等にお聞きしたいと思います。

アールピーアイ栃木 今、確かにネットを通した調査が随分出てきております。システムが整備されていれば良いですが、今から整備するとなると、整備に時間がかかると思いまして、今のスケジュールでは実施できないのではないかと思います。

渡邊委員 国のアンケート内容をモデルにしているの、調査の結果もネットのほうが収集しやすいのではないかと思います。

吉田会長 事前の広報については、例えば町の広報誌を検討するということでしょうか。

渡邊委員 はい。

吉田会長 そのほか、アンケートの実施方法につきましてはご意見を伺いたいと思います。

（なしの声）

吉田会長 では、遑って質問されても結構ですので、この後の議事について先に進めさせていただきたいと思います。

それでは調査の内容につきましてご意見をいただきたいと思います。膨大な量ですので、特に見ていただきたいところの割り振りをします。

菊地委員、渡辺副会長には、ニーズ調査（小学生以下の保護者用）問 29 についてご覧いただきたいと思います。

渡邊委員、千枝委員には、ニーズ調査（小学生以下の保護者用）問 19～問 23、問 27、問 28 についてご意見いただければと思います。

高橋委員には、ニーズ調査（小学生以下の保護者用）問 35～問 37、放課後の過ごし方についてご意見いただきたいと思います。

鹿島委員には、多いのですが、小学5年生、中学2年生、高校2年生への質問全般について見ていただきたいと思います。私も見た

いと思います。

扇委員には、ニーズ調査(中学生以上の保護者用)の間8～間13、食事・健康状態についてお願いします。

照井委員には、ニーズ調査(中学生以上の保護者用)の間14～間20、家庭生活・学校生活等についてご意見いただければと思います。

全般にご意見いただいて結構ですが、特に割り振りした部分をご覧ください。それでは、時間を5分間とりますので、ご覧いただいた後、議事に戻りたいと思います。お願いいたします。

(5分間 調査票の閲覧)

吉田会長 それでは、ご意見を伺いたいので、順番に指名したいと思います。
菊地委員、渡辺副会長、お願いします。

渡辺副会長 子育て支援センターの渡辺です。この質問の中で、「問29 現在、地域子育て支援拠点事業を利用していますか」の「2. その他の類似事業」の例として「ママサークル、保育所の開放など」がありますが、菊地委員にお聞きしたところ、幼稚園の園開放にも参加したことがあるということでしたので、幼稚園も含めたら良いのではないかと思いました。

また、子育て支援センターをご存知の方はいつも通ってくださるのですが、乳幼児健診にサポートで行ったときに、保護者の方から子育て支援センターを知らなかったとご意見をいただいたことがあるので、知っているかどうかも設問にあれば良いと感じました。以上です。

吉田会長 事務局、いかがでしょうか。

事務局(浅利補佐) 知っているかどうかについて、11ページの間31に加えて
いきたいと思います。

教育次長 幼稚園の園開放についても保育園とセットにしたいと思います。

吉田会長 それでは進行させていただきます。渡邊委員、いかがでしょうか。

渡邊委員 この質問を私達ではなくて保護者が見たときに、例えば「問19
対象のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの『定期的な教育・保育の事業』を利用されていますか」では、「定期的な教育・保育事

業」はすごく固い表現だと思います。私達は見慣れている言葉なので抵抗ありませんが、次の問 20 以降も、内容が「施設・事業等」ですので、柔らかい言葉にすると読みやすいかと思います。アンケートを受ける側が、もっと柔らかくて、すっと入るものでお願いしたいと思います。以上です。

吉田会長 千枝委員、いかがでしょうか。

千枝委員 特にはありません。

吉田会長 事務局、いかがでしょうか。

教育次長 ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。新しい表現を検討していきたいと思います。

吉田会長 次に高橋委員、いかがでしょうか。

高橋委員 小学生以下の保護者様のニーズ調査 13 ページの間 35～問 37 ですが、私の所属する社会福祉協議会で全面的にさせていただいています。問 35 の低学年、問 36 の高学年に分けてという設問で、一般的にはこのようにニーズを把握するのがよろしいかと思います。1つの目標・課題としては、13 ページの間 35 のところに「※放課後児童クラブとは」とありますが、「保護者が就労等により昼間家庭にいない場合」と条件が付きます。今のところ、国の制度的に誰でも自由に通える状態ではないというのが条件です。ほとんどの方がお勤めをされていますが、家で見ることが出来る人もいるため条件に合わない方もいます。そうなりますと、申請があっても実際 100%入所できるというわけではないです。一応定員もあります。今は子どもの居場所づくりというのが全国的に主流となってきました。これには、このような条件はありません。保護者の仕事は関係なく、保護者が勤めていても勤めていなくても子どもの居場所を作るという動きがあり、いわゆる「第3の居場所」という動きも出てきています。この設問だと、条件に左右されない場所に預けたい場合は、問 35 の選択肢では無理があると思います。これからこういったニーズが増えてくるということで、既に「第3の居場所」を造っているところもあります。保護者の方も、1人でいるよりみ

んなでどのように過ごしたいとなりますので、私の感想としては学童保育所の見直しも必要ではないかと思います。「第3の居場所」として、条件を付けずに利用してもいいのではないかと思うこともあります。そうすると定員オーバーのところも出てきており、どうしてもキャパシティの問題もあります。「第3の居場所」的なところのニーズも出てきているのかという気はしていますので、どういったかたちで把握していくか。

問37については、表現の中での「土曜日や日曜・祝日、夏休み等の長期休暇期間中に」と書いてありましたが、これは「平日のほかに」という意味なのか、長期休暇だけ利用したい方もいるので、そうなるかと曖昧なのかと思います。平日も利用して土曜日も利用したということなのか、夏休みや冬休みだけ利用したい方はどうするのか、設問の中で示せるのか気になりました。以上です。

吉田会長 事務局、お願いいたします。

事務局（浅利補佐） 様々なニーズがあるということについて、ご意見ありがとうございました。問37について、夏休みだけ利用したい方がいた場合、対応が可能なのかについて、今後検討していく必要があると思っております。そういった意味でニーズ調査を行っていきたいと思っておりますが、そのニーズに答えるかたちで学童保育所についても検討いただけるということで良かったでしょうか。

高橋委員 はい。

事務局（浅利補佐） それでは、この調査に入れていきたいと思っております。

ファミリー・サポート・センターの調査項目について、週何日ぐらいとありますが、5歳以上のお子さんが利用されることはなかなか少ないかと思えます。このまま入れてよろしかったでしょうか。

高橋委員 ファミリー・サポート・センターは、週何日か定期的に使うというより、1日の中で何時間と単発で使う方が多いです。そういうことで、週何日とすることは記入しづらいのかと。必要なときだけ何時間お願いしたいといった不規則の場合が多いと思えました。

事務局（浅利補佐） ありがとうございました。今のご意見を参考にさせていただきます。

だきたいと思います。

吉田会長 鹿島委員さん、お願いいたします。

鹿島委員 今まで子育てをされていて、意外と地味に掛かることが移動手段で、習い事やそれこそ子育て支援センターに行くにも車がないと行けないとかありまして、高校に入ると駅から近ければ自転車で行けますが、冬になると車で送らなければならないことが増えてきますので、通学手段を調査したほうが良いのかと。逆にお母さんたちも、もしかしたら移送は意外と大変で、子育て支援センターに行くといっても、地方から初めて来て、免許を持っていない可能性もあり、意外と通うことも大変、特に冬道はもっと大変ということもあるため、金ヶ崎町ならではの必要な質問かと思いました。

高校2年生になると、就職も踏まえてとか免許を取ることもありますが、実際に高校を卒業してすぐ就職するまでに免許を取らなければいけないことも踏まえて調査をしても良いのかなと思いました。以上です。

吉田会長 事務局、いかがでしょうか。

事務局（浅利補佐） 移動手段については、子どもはというよりは保護者の方に対しての調査に付け加えたほうが良いですか。

鹿島委員 子どもたちに聞くときに、「どんな手段で行っていますか」ということでも良いかと思っています。実際に学校や塾に行くときだけではなく友達と遊びに行きたいときでも、親に送ってもらわなければならないとすごく不便かと思っています。高校生くらいなら駅まで歩いて電車に乗っていましたが、山のほうに住んでいると駅まで送ってもらえないと遊びに行けないなどということがすごくかわいそうだなと思ってしまって。そのような子どもたちのニーズも聞きつつ、親も負担か踏まえて聞くのも良いかと思っています。

事務局（浅利補佐） 分かりました。それでは子どもの生活に関する調査において、遊び・通学に限らず様々な施設への移動手段、遊びの移動手段については確認することを調査項目に検討したいと思います。

車の免許の取得については、高校の在籍時から卒業するまでの間

に取得することでしょうか。

鹿島委員 年代的には18歳くらいです。自動車学校に通うお金が最終的には負担になるかもしれないので、どれくらい免許を取りたいが取れない人がいるのかという問いがあっても良いのではないかと。自動車学校に行く手段もよく分かりませんが、将来を見据えて免許を取りたいか、困っていないかも含めても良いのかと思います。

事務局（浅利補佐） 個人的な事例ですが、高校との行き来は教習所でバスを手配していただけるようです。また、免許取得に関して保護者と共に説明会を開催する学校もありますので、学校ごとに考えていることと思います。よって、別なかたちで検討していきたいと思います。

吉田会長 同じ調査票を私も検討しましたので、私から意見を述べさせていただきます。子ども調査の小学5年生について、1ページ問3「あなたは、ふだん学校の授業以外で、どの様な勉強をしていますか」に「3. 学校の補習を受ける」という選択肢があります。小学生の「補習」ですが、例えば「学校の休み時間に先生の教えてもらう」などが良いのかなと思いました。

続きまして、3ページ問10「あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか」は学校の部活動を含む設問となっておりますが、小学生が学校の部活動に参加することは正式には「クラブ」と申しますが、必修ですので100%参加しています。100%答えられてしまうと本当に聞きたいことが分からなくなってしまうので、地域のスポーツクラブや文化クラブに限って答えたほうが良いのか。小学生にとって文化クラブと伝承活動への参加はほぼ同じです。スポ少を考える子どもたちもいるので、加えても良いのかなと思います。

3点目について、7ページ問18は、家庭で辛い思いしているかどうかの設問ですが、欄外に「上のようなことで、つらい気持ちの場合は、学校のスクールカウンセラーや「チャイルドライン」に話してみてください」ということで相談先を明示しているのは、非常にあたたかい配慮だと思います。また、「チャイルドライン」の電

話番号は公表されていますが、ここに改めて電話番号まで載せていることは、非常にありがたいと思います。「学校のスクールカウンセラーに相談してください」とありますが、本町の中学校には常駐のスクールカウンセラーはいますが、小学校は常駐のカウンセラーは1校のみで、他は巡回するカウンセラーとなっておりますので、少し戸惑うのかと思いました。また、家庭のことですので、学校の教員に相談したいという子どももいると思いますが、ここで学校の教員が除かれているのは理由があるのかと思いました。

以上3点気づきましたが、いかがでしょうか。

教育次長

では、私のほうからお答えいたします。

1ページの「補習」についてはその通りであり、「休み時間や放課後に」のような表現がよろしいかと思えます。

また、3ページの「部活動」という言葉は小学生に関わりがなく、「クラブ」であれば、先ほどおっしゃった通り「必修クラブ」がありますので、明確に分かるような表現が必要と思ったところです。

それから、7ページですが、こちらはその通りで、スクールカウンセラーは常駐と言っても2週に1回程度しか来てないので、スクールカウンセラーのネーミングそのものが子どもたちにはよく分からないと思います。実際には学校の先生として問題はないのかと。学校の先生に相談すれば、スクールカウンセラーに繋ぐこともありますので、子どもたちの気持ちになって考えると、「学校の先生」を入れて、「スクールカウンセラー」を外すことが良いかと思えたので、検討してみたいと思います。ありがとうございます。

吉田会長

それでは扇委員、お願いいたします。

扇委員

中学生以上の保護者用の1ページ問8～問13の食事と健康状態についてですが、問10「お子さんの夕食の状況について」ですが、毎日同じとは限らないと感じました。親が休みの時は揃って食べるなど違う時もあると思うので、回答する時にどのように書いたら良いのか、書き方をわかりやすいようにしたら良いのかと感じました。これは、小学生以下の保護者用の調査票も同じかと思いま

した。

吉田会長 事務局、お願いいたします。

事務局（浅利補佐） その通りですので、説明を載せていきたいと思えます。

吉田会長 では照井委員、お願いいたします。

照井委員 中学生以上の保護者用の問 14～問 20 について、実際にこのようなアンケートが来たらという観点で見たところ、率直な感想ですが、設問に迷わずにチェックできるので良いのではないかと思います。

吉田会長 事務局、何かありますか。

事務局（浅利補佐） ありがとうございます。ご意見いただきましたので、その通り進めていきたいと思えます。他にも分かりづらい点等ありましたら、後でも結構ですのでご意見いただきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

吉田会長 割り振りしたところのご意見について一通り伺いましたが、さらに言い忘れていること、聞きたいことでも構いませんので、ご意見ありましたらお願いいたします。

鹿島委員 「子どもの生活に関する調査（高校 2 年生）」9 ページの問 26「あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思えますか」について、設問「a（自分や友人の家以外で）平日の夜や休日を過ごすことができる場所」の例が「●●、●●など」となっています。想像ができませんでしたが、どういう場所を想定していますか。

事務局（浅利補佐） a）は一般的な事項を載せていましたので、削除するかどうか検討していきたいと思っております。b）から下に関しては必要項目となっていますが、それ以外に平日過ごす場所が町内にあるかどうか、先ほど高橋委員のお話にもありました子どもの居場所が、学童保育所や子ども食堂子ども以外にあるかどうかに関して、検討していく必要があると思っております。今のところ該当するものがなかなかないということから、削除することで検討していきたいと思えます。

吉田会長 よろしいでしょうか。

鹿島委員 ありがとうございます。

吉田会長 その他、ご意見はないでしょうか。

千枝委員 幼稚園の現場として心配していることとして、家庭でYouTubeを見せていて、その時間も子どもが見たい限り見せている家庭もありますが、約束をして見る時間を決める等の設問について、今回は特に考えなかったのでしょうか。

吉田会長 事務局、お願いいたします。

事務局（浅利補佐） 今のご質問は、就学児に限らず、就学前も含んでということでもよろしかったでしょうか。

千枝委員 はい。

事務局（浅利補佐） その件に関しましては、お話しいただいたご意見を参考に検討していきたいと思えます。

吉田会長 よろしいですか。

千枝委員 全国的な部分で、評価はありますか。

アールピーアイ栃木 YouTubeの話ですか。

千枝委員 はい。

アールピーアイ栃木 承知しておりません。

吉田会長 調査票の内容について、今日の会議で議決するのではなくて、それぞれ参考事項を述べる機会ということで、会議でいただきました意見を参考として、町で検討するとのこととさせていただきます。

協議（１）の子育て支援事業計画の計画策定について、同じく（２）のニーズ調査について、意見を参考にして検討していただくこととして概ね承認ということとよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

それでは、承認ということで本日の会議を終えたいと思えます。

吉田会長 協議「（３）その他」に参ります。皆さんから子育て支援事業について、ご意見・ご質問等はありませんでしょうか。

高橋委員 今日はいろいろな計画について話がありましたが、子育て支援は子どもだけでなく保護者も支援しなければならないのは当然で

すが、それ以外に関わっているところもたくさんあります。金ケ崎町では学校、幼稚園・保育園だけでも17か所ぐらいあると思いますが、その他にも子育て支援センターや学童保育所などがあり、その関係者がいろいろ関わっていると思います。ところが残念なことに、現場の方々が一堂に会した情報交換の場がありません。それぞれどのようなことに悩んでどのような状況なのか見えない状況です。そこで次期計画で、子どもだけでなく関わった事業所の意見も吸い上げたほうが良いのではないかと思います。今回は事業所へのアンケートがありませんでしたが、関係者の意見を出したほうがより良い計画になるのではないかと考えております。この5年間で、子どもを取り巻く環境もいろいろな動きが増えると思います。明らかに長期的な見通しが必要だと思いますし、状況としては子どもが減るということで定員割れという問題や、部門によっては定員超過という状況となります。今の状況で考える上で大きい要素となりますので、そういう状況を踏まえたかたちでアンケートに反映させる場面を検討しても良いのかと思います。

吉田会長 いかがでしょうか。

事務局（浅利補佐） ありがとうございました。第2期計画については、施設に関しましてヒアリング調査を別に行っておりました。今回は、国の動向が見えなかったことから、今後どのような方針となるかわからないということで入れておりませんでした。ただ、お話のあった通り様々な団体・施設等に関しては、いろいろ聞き取りする必要があるのではないかと考えておりますので、アンケート調査とは別にその調査の方法について検討して参りたいと思います。ありがとうございました。

吉田会長 他にございますか。

千枝委員 幼稚園や保育園に関わって、保護者の方々、一般の町民の方々の子どもたちを安心・安全に預けられる施設、共稼ぎで土曜日も、朝から夜6、7時まで預けられる施設と認知されている部分が多いと思います。

幼稚園・保育園施設では、人間の幼児期にどのように大切に、関わって子どもたちを育てているという部分で、町として啓蒙活動がもっとあっても良いのではないかと感じます。幼児期の教育というのは、教育の期間、人間としての土台作りというのはこのように大事であるということを町民の方々にもっと啓蒙しても良いのではないかとすることは常々感じております。実行されている部分は多々あると思いますが、もっとアピールしても良いのではないかと日ごろ強く感じていました。生涯で一番大事な人生のスタートである幼児期、それが本当に大切な時期であり、こういう部分が大切に、このように関わる必要があるということをもっとアピールしたほうが良いのではと感じました。

吉田会長
教育次長

事務局、お願いします。

その通りで教育の世界、幼児期は人間の土台作りで大切な時期にあたります。そういった意味で力を入れてはありましたが、保護者へのアピールというところにつきましては今後の課題であると感じながら聞いておりました。ありがとうございます。

吉田会長

他にございませんか。

私からもう1つ、第1回会議で、公園の整備ということが話題になったと思いますが、今回のアンケート調査では人的に対応に関わるサービスに限られた内容だと思っておりました。「子どもの居場所」という設問はありましたが、それは人的サービスを伴う居場所を指し示しているのではないかと思いました。場所としてハード面でのニーズについて、この調査とは別の機会に保護者から意見を聞いても良いのではないかと思いました。

それでは、以上で議事は終了ということによろしいでしょうか。普段から直面している分野から具体的にお考えいただいて非常に中身の濃い意見だったとおもいます。ありがとうございました。以上で議長の任を終了させていただきます。

〔４．その他〕

稲葉課長 ありがとうございました。それでは「次第4. その他」に入ります。事務局より報告がございます。

事務局（浅利補佐） 今回のアンケート調査の結果について取り纏めができましたら、3月下旬の予定で第3回会議を行いたいと思っております。改めて日程調整させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（柴田係長） 皆様の机の上に、児童虐待のリーフレットとウエットティッシュ、オレンジリボンを配布しております。11月が虐待防止推進月間となっておりますので、そちらの解説となっております。各施設のほうにはポスター等の掲示等を、今後ご依頼する予定でしたので、ご協力のほどよろしくお願い致します。本年度、オレンジリボンですが、支援センターにご協力いただきまして、センターをご利用になったお父さん・お母さんや小さなお子さんにもオレンジリボンを作成していただいて、虐待について認識していただくというような活動を行いました。ご協力ありがとうございます。

〔5. 閉会〕

稲葉課長 それでは、以上で本日の会議を終了とさせていただきます。お疲れ様でございました。